

第33回 白石記念講座報告

「発電事業とビジネスチャンスーわが国の電力事情の現状と将来ー」

育成委員会 技術講座分科会委員 西野 誠
(新日本製鐵株技術開発本部技術開発企画部部長代理)

規制緩和の流れの中で電気事業法が平成7年12月に改正され、卸電力事業の自由化を始めとして電気事業は新たな展開を迎えました。発電事業は長期的に安定した企業収益の確保が期待でき、公益事業への協力によって企業の社会的使命を果たし得るものであり、エネルギーの有効活用の点からも、また都市型製鉄所の将来方向を考える点でも重要な意義を持つものです。電力供給の実態を的確に認識することを目的として、平成9年2月26日(水)、東京新宿の工学院大学にて『発電事業とビジネスチャンスーわが国の電力事情の現状と将来』と題する第33回白石記念講座を開催致しましたので概要を報告致します。

【講座構成】

『電力を巡る情勢と課題』通産省資源エネルギー庁公益事業部 山田知穂
『新エネルギー技術開発の現状と将来展望』NEDO新エネルギー導入促進部 上山慶介
『電力事業の現状と課題』電気事業連合会業務部 寺本 嵩
『鉄鋼業の電力卸事業への対応』日本鉄鋼連盟原料部 宮間宣幸
『廃棄物発電の現状と課題』三菱重工業環境装置部 岡田光浩
司会：住友金属地球環境部 倉重宗寿(午前)、新日鐵技術総括部 村田 稔(午後)

【概 況】

今回の講座は、平成8年度卸電力落札者が決定し、平成9年度募集枠が明らかにされた時点、加えて前日に電気事業審議会需給部会電力基本問題検討小委員会からの報告書が提出されるというタイムリーな開催となりました。各界を代表する第一線の講師陣と、エネルギー問題に精通した座長の好リードにより、鉄鋼業に限らず卸電力事業への参入を図る企業、電力各社、エネルギー全般に関心を寄せる多種多様な団体・企業から150名を越える聴講者からの活発な質疑を受け、実り大きい講座を開催することができました。

【講演内容】

(1)『電力を巡る情勢と課題』

まず、資源エネルギー庁・山田講師から、長期的な電力需給の見通しと電力供給計画によりわが国の電力問題の全体像と、電気事業の規制緩和および経済構造改革プログラムについてご説明いただきました。また前日の電力問題検討小委員会の中間報告の内容にも触れ、今後の卸電力入札制度のあり方についても貴重な情報を得ることができました。

(2)『新エネルギー技術開発の現状と将来展望』

続いてNEDO・上山講師から、地球環境問題への対応や資源小国であるわが国にとって期待の大きい太陽光・風力・地熱等の新エネルギー技術開発の実態と展望を説明いただきました。自然条件による制約等でコスト面・技術面からの課題は大きいながら、着実な普及促進に向けて開発が進められている実態を伺いました。

(3)『電気事業の現状と課題』

電気事業連合会の寺本講師からは、海外との電力事情との比較を含めて安定した電力を低価格で供給する電力各社の取り組みをご説明いただき、更に電力卸供給の入札実施による発電コスト削減へのインパクトや電力各社による供給計画との整合、新エネルギーへの対応を含めて、競争原理の導入と自己責任の原則に従う新たな対応について説明いただきました。

(4)『鉄鋼業の電力卸売事業への対応』

電力卸事業への参入側として、日本鉄鋼連盟の宮間講師から、鉄鋼業のエネルギー構造と自家発電の実態を明確にご説明いただきました。鉄鋼業が保有する技術・インフラの視点から高い電力供給ポテンシャルを有し、大きなビジネスチャンスと位置付けられること、環境問題等を考慮しつつ、今後とも積極的な参入によって電力料金低減や社会貢献に寄与できることが、説明されました。

(5)『廃棄物発電の現状と課題』

最後に三菱重工業・岡田講師から、ごみ発電の実態と技術開発に関するご説明をいただきました。社会的にも地球環境の視点からごみの有効活用のためのシステム整備・技術開発は重要です。本講演では効率的なごみ発電を実現するための技術についてご説明をいただき、鉄鋼業にとっても価格合理性を有する耐食性を有する材料の開発等を通じた貢献が必要とされることが認識されました。

結びとして、今回の貴重なご講演を快く引き受けて戴いた講師各位に深く感謝致します。